

●携帯電話からは



こちらの QR コードをあなたの携帯で読み込んでください。
もしくは以下のアドレスにアクセスしてください。

(URL)
<http://www.seimeijin.jp/mobile/>

●パソコンからは

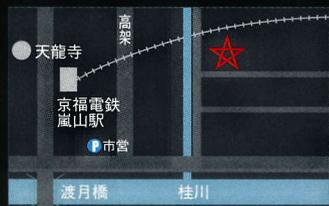
(URL)
<http://www.seimeijin.jp/>

●晴明神社へのアクセス



- 住所 〒602-8222 京都市上京区堀川通一条上ル 806
- 電話 075-441-6460 (社務所)
- 駐車場 あり (14 台・有料)
- 参拝時間 9:00 ~ 18:00 (無休)
- 拝観料 なし
- 交通 (市バス)
 - ・京都駅より[9]号「一条戻橋・晴明神社前」下車 徒歩2分
 - ・阪急四条烏丸より12号「一条戻橋・晴明神社前」下車 徒歩2分
 - ・三条京阪駅より[12][59]号「堀川今出川」下車 徒歩2分 (タクシー)
 - ・京都駅から約15分

●嵯峨墓所所在地 右京区嵯峨天龍寺角倉町 11



晴明神社のお礼とお守り



神札
家内安全、心願成就のお札。神棚や居間にまつる。
500 円 220×90(mm)



御守
身体健全、魔除けのおまもり。最も一般的なもの。
500 円 80×45(mm)



厄除守
厄除けのおまもり。桃は昔から魔をよける果実といわれています。
500 円 45×30(mm)



向上守
壁を突破できない学生や営業職の方におすすめ。天地五行のうちの土(黄)の粘りと火(赤)の勢いで学力、営業力が右肩上がりにアップ。
500 円 45×30(mm)



陰陽守
縁結び、夫婦和合のおまもり。太極図は陰陽男女を現す。
500 円 45×30(mm)



勝守
スポーツ、あらゆる競技会、資格試験、就職試験に、様々な競争相手、そして己に勝つために。
500 円 45×30(mm)



交通安全
交通安全の御守。車やバイク、通学カバンにつける。ホック式になっていることにより自転車等にもつけやすく、付け替えが容易。
500 円 75×75(mm)



魔除ステッカー
赤・青で一組。家の門柱、玄関、車、バイク、ヘルメットに。車に張る場合は追突しない為に前部に、追突されない為に後部にお張りください。色は、どちらに貼られてもかまいません。
500 円 105×105(mm)



ききょうまもり
境内に桔梗の花が咲く時期のみ授与される「ききょうまもり」。7月頃から9月頃までの期間。
【要問合せ】
600 円 45×30(mm)



みずかがみ守
陰陽道では、水に黒色が配置します。黒色(水)の桔梗印を首からかけて、集中力向上、災除けとする。晴明井をモチーフに作られた御守です。
1,000 円 400(mm)

※詳しくはホームページをご覧ください。



御祭神 安倍晴明御霊神

晴明神社で祀られている安倍晴明公は孝元帝の皇子大彦命の御後胤で幼い頃から非常に賢明な方で多くの道に秀でておられました。特に天文暦学の道を深く極め、神道を思いのままに操る霊術を身につけられておられたのです。成人になられた後には天文陰陽博士として活躍し、朱雀帝から村上、冷泉、円融、花山、一条、の六代の天皇の側近として仕えられ、数々の功績をたてられます。そして、村上帝に仕えられておられた時は進んで唐へ渡り、はるか城刑山にて伯道仙人の神伝を受け継がれます。帰国して後、これを元に日本独特の陰陽道を確立。朝廷の政治、日本人のさまざまな生活の規範を決められました。



神社沿革



晴明神社は晴明公の屋敷跡であり、天文陰陽博士として活躍していた拠点であった場所です。晴明公が亡くなられた寛弘2年(西暦1005年)後に一条天皇は晴明公の遺業は非常に尊いものであったこと、そして晴明公は稲荷大神の生まれ変わりであるということで寛弘4年(西暦1007年)、そのみたまを鎮めるために晴明神社を創建されたのです。

晴明桔梗印

当社の神紋、晴明桔梗は五芒星ともいわれ、晴明公の創られた独特のもので陰陽道に用いられる祈祷呪符の一つです。天地五行(木・火・土・金・水)を象徴した宇宙万物の除災清浄を表します。厄除・開運を願い、身に付ける風習が各地にあります。



陰陽五行説



陰陽道(おんみょうどう)は、古代の中国で生まれた自然哲学思想、陰陽五行説を起源として日本で独自の発展を遂げた自然科学と呪術の体系。「いんようどう」とも読み、陰陽道に携わる者を陰陽師といいます。かつては専門の研究者によっても、陰陽家の思想が日本に伝わったものが陰陽道である、と説明されてきました。しかし、近年では、陰陽五行説が、自然界の万物は陰と陽の二気から生ずるとする陰陽思想と、万物は木・火・土・金・水の五行からなるとする五行思想を組み合わせ、自然界の陰陽と五行の変化を観察して瑞祥・災厄を判断し、人間界の吉凶を占う実用的技術として日本で受容され、神道、道教、仏教などからも様々な影響を受け取って日本特異の発展を遂げた結果誕生したものと考えられています。

旧一條戻橋

神社の南百メートルのところにある一條戻橋は、源氏物語に「ゆくはかへるの橋」と書かれ、また、晴明公が式神を封じた場所で、文章博士三善清行が蘇生した話でも有名です。現在でも嫁入りや葬列はこの橋を渡りません。境内には、平成7年まで実際に使われていた欄干親柱を使い、この橋を再現したものが有ります。



境内にある一條戻橋

晴明井

山城名泉の一つで病氣平癒の水としてご利益がある水が湧き出ます。立春になると神職が井戸の上部を回転させ、取水口がその年々の恵方を指す仕組みになっております。またここは千利休の屋敷跡でこの霊水をもって茶を点てたものです。



珍しい五角形の井戸

厄除桃

古来中国や日本では、桃は厄除、魔除の果物とされ、古事記、日本書紀にも登場し、桃太郎伝説でもお馴染みです。ご参拝の方がこの桃に厄を撫でつけていかれます。



本殿前の厄除桃

●年中行事

1月

2月

3月 4月 5月

6月 7月 8月 9月

10月 11月

12月

歳旦祭(元旦)

午前8時、一年で一番最初の神事、歳旦祭が行われます。早朝6時に境内にある晴明井より汲み上げた若水を神前にお供えし、四方を拝して、その年の国家の安泰を祈願致します。晴明神社には、午前零時を過ぎたところから多くの方がお参りに来られます。



節分星祭(節分日)

節分の節とは、一年の節目を意味します。すなわち、「陰」から「陽」へ節分の日を境に「気」が変わります。その節目の日に、一年を通じて身についた穢れを祓う、それが節分祭です。陰陽道と深い関係をもち、晴明神社ではこの祭事を大切にしております。この日、人々は人形(ひとがた)という人間の形を模した紙に息を吹きかけ、そこに自らの穢れを移して神前に納めます。こうした慣習は地域の人々にとっては慣れ親しまれたものであり、日が暮れる頃になると多くの人々が人形をもって、そして、歳の数だけ豆をいれた袋をもって境内にやってきます。また、同じように境内の一角の焼き上げ場にも人が集い、次々と古いお札が持ち込まれます。その風情は静かで、どこか清々しく、一年の節目となるべく厳粛な気配がそこかしこに漂っています。



火災除祈願祭



晴明祭

宵宮祭(秋分日前夜)
例祭前夜午後7時より宵宮祭あり古式豊かに御湯立神楽が奉納されます。無病息災を願うたくさんの方がお清めされた熱いお湯をうけられ、地元の子供たち約100名が列をなす「ちびっこお迎え提灯行列」も執り行われます。

例祭(秋分日)
午前10時より行われる年中の最も重要な祭儀で氏子奉賛会、講社員多数参列し、献茶、献花等もあり、境内に露店が立ちならび非常に賑います。

神幸祭(秋分日)
午後1時に本社を出発し、神輿の渡御があり、巡幸区域は堀川通を中心に西は智恵光院通、北は寺ノ内通、南は下長者通の間の氏子町内を練り歩きます。祭列には勇壮なる少年鼓笛隊を先頭に菊鉾、扇鉾、獅子、御神宝、飾馬等に晴風稚児、八乙女、四神稚児などが独特の装いも美々しく供奉します。神輿は本社神輿の他に「桃園みこし」「聚楽みこし」の二社の若神輿が巡幸し、道中御旅所祭を行い、午後5時本社に還御します。



嵯峨墓所祭(9月26日)

当日は晴明公のご命日にあたり、嵯峨墓所に参拝し祭典を執り行います。お供えをし、祝詞(のり)を上げる簡素なものです。例年熱心な方がお参りされます。



御火焚祭(11月23日)

火を焼きあげる簡素な祭です。京都では各町内や家々で古くから行われていた祭で、近年では徐々にその習慣は失われつつありますが、ここ晴明神社では五行説に基づく重要な祭として執り行います。その目的は「火生土」の理、すなわち火を焼きあげることで作物を生成する際に疲弊しきった土を甦らせることであるといわれています。毎年人数を限定して一般の方々も社殿にお入りいただき、この神事に参加頂きます。寒さが深まりゆくなか、しんしんと静かな時間の中でほむら(炎)が神官によって炊き上げられる。その厳粛なお火焚祭に参拝者の方々は静かな感動を感じておられるようです。

